

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2025年3月20日第52号(通巻58号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax;072-737-9454

mail; oribunokai@gmail.com

facebook;oribunokai

blog; olivenokai.hatenablog.com



イスラエルは停戦を破壊

3月18日にイスラエル占領軍は、ガザへの大規模攻撃を再開し、数時間で400人以上の住民を殺害した。イスラエルは、ハマスが米国の提案の受け入れを拒否したためだと主張した。ハマスは1月に合意した停戦の第二段階に入ることを求めており、そこには、イスラエルのガザからの完全撤退が含まれているため、イスラエルは第一段階の延長をもとめた。米国案も同様で第一段階を延長し、人質の解放と協議を継続するというものであった。停戦に違反し続けているのは、イスラエルで、ガザの人々にとって、死活的な人道支援物資の搬入を阻止し、電気の供給を停止し、軍事攻撃を続けていた。イスラエルがハマスのせいにするのは、第二段階に入り、ガザからの撤退を望んでいないからである。

この攻撃に先立ってネタニヤフは、攻撃に反対するものを排除。シンベトの長官の解任を行い。ハマスと直接交渉した米国の特使の解任を要求し、米国とハマスの直接交渉をつぶした。そして、極右のベングビールを内閣に復帰させた。この復帰の条件に、シンベト長官と検事総長の解任が条件とされた。極右路線に反対するものを排除して、人質の解放よりも、ガザの民族浄化を進

行させることを優先した。

この攻撃の前には、米国によるイエメンへの大規模攻撃が行われた。これは、明らかにイスラエルの攻撃再開を支援するものであった。また、トランプは、イランなど抵抗の枢軸に恫喝を行っている。

交渉での人質の解放を求める家族は、戦闘の再開に反発し、抗議行動を行った。戦争の再開は、人質が生きて戻れる可能性を奪い、ネタニヤフの政治生命を守るためであり、また、シンベトの長官の解任などを民主主義の否定として抗議している。

また、この攻撃を国際社会は、米国を除いて非難している。

米国内の独裁体制の進行

トランプ政権は、イスラエルの戦闘再開を支持し、抗議行動を反セム主義として、外国人の学生のビザをとりけし、国外追放する政策をとり始めた。弾圧と言論統制を行っている。そして、コロンビア大学で抗議行動を組織していたアルジェリア国籍のパレスチナ人学生を逮捕し、国外追放をしようとしたが、最高裁が追放を止めた。トランプは、民主主義、自由主義を表明するものを左翼過激派として排除。左翼過激派が、支配しているとして

USAIDの解体、VOAの解体などの排除を行っている。これまでの米国の政権が、米国の影響力を拡大するために使ってきた道具を左翼過激派と決めつけて、解体しようとしている。

米国議会のトランプ政権の閣僚の指名の公聴会で、議会議員からトランプはロシアのエージェントか、そうであればトランプのやっていることはつじつまがあうと指摘している。ウクライナ問題では、明確にロシアの立場にたち、ウクライナ、EUと対立している。パレスチナ問題では、キリスト教シオニストの立場からネタニヤフ極右政権を全面的に支援している。関税をもてあそび、古めかしい領土拡張を主張したり、帝国主義時代の古い世界にもどしている。拡張主義のロシアと気が合うはずである。

アラブの動き

アラブ連盟は緊急会議を開きアラブのガザ再建案を採択した。アラブ諸国は、トランプがパレスチナ住民をガザから追い出し、ガザを所有すると主張したことに対して、ガザの住民を追い出さなくても、ガザの再建はできるとガザ再建案を提案していた。ガザの管理は、ハマスでも自治政府でもないテクノクラートによる管理を打ち出している。しかし、このイスラエルの一方的な停戦破棄はアラブ諸国の顔に泥を塗った。トランプ政権も、無責任に援助の停止を脅しに、ヨルダン、エジプトにガザの住民の受け入れを強要し、拒否されるとアフリカの諸国に要求するなどしている。

自治政府

イスラエルがジェニンなどの西岸北部で、抵抗勢力の解体を口実に、民族浄化を行っている時に、自治政府はジェニンで抵抗戦士を逮捕している。また、ファタハと自治政府は、ハマスと米国と直接交渉を非難した。意味不明で、ハマスと米国の直接交渉に慌てたイスラエルと同じである。

西岸においても、イスラエル占領軍による民族浄化が進行しているにも関わらず、パレスチナ住民を守る行動をとっていない。イスラエル占領軍は、ジェニン、トルカラムなどの北部の難民キャンプを破壊し、住民を追放し、ガザと同じように破壊している。4万人のパレスチナ人が銃を突きつけられて、強制的に追い出されている。

イスラエル占領軍は、まず、ガザと同じように、西岸の北部から住民を追い出し、住居を完全に破壊し、パレスチナ人が戻ってこれないようにしようとしている。

パレスチナ

イスラエルは、ガザだけでなく、西岸においても民族浄化を行っており、それに対して、自治政府は抵抗せず、

逆にイスラエルに共同して、抵抗運動の戦士たちを弾圧している。自治政府が、イスラエル米国に媚びを売っても、イスラエルは、ハマス後のガザで自治政府が統治することを拒否しており、アラブの案においても、自治政府がガザを管理するのではなく、テクノクラートによる統治を言っている。それはパレスチナ人に人気のない自治政府が、統治することでさらに紛争が生まれることを危惧しているからである。ハマスは、自ら統治から退き、テクノクラートによる統治を支持しており、パレスチナの対立を回避しようとしている。しかし、パレスチナ人を民族浄化をしたい米国とイスラエルは、この案も認めず、イスラエルの占領と併合を意図している。

イスラエルによる大量虐殺、民族浄化とそれへの米国の全面的な支持は、国際法に反しており、それを認めれば、ロシアのウクライナ侵攻など同様に、第二次大戦後作られてきた、法による支配が崩壊し、トランプが叫ぶ「力による平和」の世界という弱肉強食の世界に戻ってしまう。この事態に対し、国連をはじめとする国際社会の無力が明確になっている。このような絶滅戦争を防ぐことができれば、同じようなことが起こることになる。

当然のこととして、世界中で、この絶滅戦争に反対し、抗議する声は広がっており、欧州諸国は、立場をかえつつある。しかし、もっとも重要なことは、パレスチナの民族的統一と民族浄化への抵抗、そして、国際的な連帯運動を強化することである。



PFLP の 3 月 8 日国際女性デーのポスター



ラ・ビア・カンペシーナ声明：ジェノサイド 527 日目、イスラエル占領軍はガザで虐殺を続ける

2025 年 3 月 18 日

(パニヨレ：2025 年 3 月 18 日) 本日夜明け、イスラエル占領軍はガザに対するジェノサイド戦争を再開し、残忍な空爆の波を起こし、わずか数時間で 412 人以上のパレスチナ人を虐殺し、少なくとも 562 人を負傷させた。殉教者と負傷者の数は依然として増加しており、数え切れないほどの人々が瓦礫の下に閉じ込められている。

イスラエル占領軍は 527 日間、ガザ地区全域でパレスチナ人に対する絶滅作戦を展開してきた。3 月 2 日から 17 日間、イスラエルはガザの国境を封鎖し、最も基本的な人道支援さえも受け入れず、230 万人の人々の食糧、医薬品、燃料を断った。ガザの全住民は強制的な飢餓により飢えに苦しむ一方、イスラエルの爆弾は降り注ぎ続けている。

病院、難民テント、家族全員が、イスラエルによる最新の虐殺の標的にされた。ガザ保健省の長官は、医療状況は壊滅的で、38 の病院のうち 25 が機能停止し、残りの病院もニーズを満たせないと報告している。アル・シーファ病院の院長は、物資不足のため毎分 1 人の負傷者が亡くなっていると話している。

いわゆる「停戦」中も、イスラエル占領軍はパレスチナ人を殺害し、救命支援を阻止し続けた。今日、イスラエルは大量虐殺をエスカレートさせ、2023 年 10 月 7 日以来最も血なまぐさい日の一つで数百人を虐殺した。

これは大量虐殺だ。パレスチナ人を抹殺しようとする組織的かつ体系的な試みであり、世界はそれを許している。

米国を筆頭とする多くの西側諸国政府は、これらの虐殺の直接の責任者であり、ジェノサイドの積極的な参加者です。彼らは、イスラエル占領軍が白昼堂々と民族浄化、大量飢餓、戦争犯罪を犯している中、イスラエル占領軍に武器、資金、保護を続けています。イスラエルの殺人マシンに燃料を供給するために爆弾と数十億ドルを送っている間は、「自制」を求める彼らの呼びかけは無意味です。

私たちは即時の物質的行動を求めます：

ジェノサイドを終わらせる：世界はイスラエルの攻撃を無条件に停止させ、さらなる軍事侵略を阻止しなければなりません。

ガザの国境を開く：3 月 2 日以来のガザの完全封鎖は死刑宣告です。世界はイスラエル占領軍にすべての国境を直ちに開通させ、食料、医薬品、燃料の無制限の流入を確保しなければなりません。

武器と貿易の全面禁輸：イスラエル占領軍にまだ武器を送っているすべての政府は、パレスチナ人の血を流しています。私たちは、イスラエル占領軍との武器販売、軍事援助、貿易協定の即時停止を求めます。戦争犯罪に対する制裁と訴追：ジェノサイドはリアルタイムで起こっており、責任者は責任を問われなければなりません。国際刑事裁判所 (ICC) と国際司法裁判所 (ICJ) は、イスラエルの指導者を訴追し、実際の結果を課すために今すぐ行動する必要があります、第三国はそれに応じて法的義務を遵守する必要があります。

企業の共謀を解体する：パレスチナの土地の収奪と破壊から利益を得ている農業関連大手企業、武器製造業者、企業は、ボイコットされ、投資が撤退され、法的責任を問われなければなりません。

パレスチナのための世界的な動員

世界が強制しない限り、このジェノサイドは止まりません。私たちは、世界中の良心ある人々、労働組合、活動家、コミュニティに、武器の輸送を阻止し、貿易を妨害し、共謀企業を閉鎖し、ガザが虐殺されている間、通常通りのビジネスを許可しないなど、行動を拡大するよう呼びかけます。

私たちは、良心あるすべての人、すべての運動、すべての最前線の労働者、すべての農民組合に、今すぐ行動を起こすよう呼びかけます。ボイコット、投資撤退、制裁、抗議、妨害、抵抗。大量虐殺に中立地帯はありません。

ガザは消滅しません。パレスチナは自由になります。

ラ・ビア・カンペシーナ

赤ん坊や女性を殺すことは戦争の目的ではない」 - ヤアロン氏、イスラエルのガザ計画を非難

イスラエルのモシェ・ヤアロン元国防相。(写真: アッシュ・カーター、米国連邦機関の写真、ウィキメディア・コモンズ経由)

「2025 年 3 月 16 日 ニュース

パレスチナ・クロニクルスタッフ

最近のインタビューで、イスラエルのモシェ・ヤアロン元国防相は、イスラエル政府のガザ人口を「減らす」計画を非難した。

イスラエルの元国防相モシェ・ヤアロン氏は、イスラエル当局がガザの人口を「減らす」計画を非難し、「これは自分が住みたい国の戦争目標ではない」と述べた。

「スモトリッチ氏とベン・グビル氏が、ガザからアラブ人をなくし、ユダヤ人と入植するために人口を減らすと話しているが、これは自分が住みたい国の戦争目標ではない」とヤアロン氏は土曜日のイスラエル・ヘブライ語チャンネル 13 のインタビューで語った。

インタビューの中で、ヤアロン氏はまた、イスラエル政府が「ガザで乳児を殺すために兵士を派遣しない」ことを期待していると述べた。

「私はそれを受け入れない。復讐は戦争計画ではない」とヤアロン氏は述べ、さらに「イスラエル国が乳児や女性を殺すために兵士を派遣しないことを期待している」と付け加えた。

「民族浄化」

昨年 11 月、元国防大臣は「我々はガザ地区の併合と民族浄化に引きずり込まれている」と発言し、話題を呼んだ。

「現在我々が導かれている道は、征服、併合、民族浄化を伴う」と、エルサレム・ポスト紙が引用した別のヘブライ語チャンネルのデモクラット TV とのインタビューでヤアロン氏は付け加えた。

「我々は本当にその方向に向かっていると思うか」と尋ねられると、元大臣は「なぜ『向かっている』と言うのか？今そこで何が起きているのか？ベイト・ラヒヤは消え、ベイト・ハヌーンは消えた。ジャバリヤでは作

戦が進行中で、基本的にこの地域からアラブ人を排除している」と答えた。

発言は却下

イスラエルのイサク・ヘルツォグ大統領は、ヤアロン氏の発言を「完全に現実からかけ離れている」と非難し、「我々は、IDF（イスラエル軍 - PG）が行ったとされる大量虐殺や民族浄化の主張を含む、我々に対する流血の誹謗中傷を拒絶する」と付け加えた。

ヘルツォグ氏は、イスラエル軍は「殺人はしないし、民族浄化も行わない。以上」と述べ、ヤアロン氏の発言は「完全な嘘」だと述べたとエルサレム・ポスト紙は報じた。

イスラエル軍もヤアロン氏の発言を却下し、「国際法に従って行動し、作戦上の必要性に応じて、保護のため一時的に住民を避難させている」と述べた。

「IDF は、IDF とその兵士に危害を与えるガザ地区での民族浄化の深刻な主張を却下する」と軍のスポークスマンは述べた。

エルサレム・ポスト紙によると、4 月初めには、当時戦時内閣のメンバーだったベニー・ガンツ議員とガディ・アイゼンコット議員を非難したとも報じられている。

「終わりの見えない危機が始まって半年、救世主、徴兵忌避者、詐欺師からなるこの政府の唯一の功績は（あなた方のおかげで）生き残ることだけ。今こそ反省すべき時だ」と、同紙は同議員らに宛てたメッセージの中で述べたと伝えている。

ネタニヤフ首相、停戦合意を「遅らせている」

アナドル通信社によると、ヤアロン氏は土曜日早朝、ベンヤミン・ネタニヤフ首相がハマスとの停戦および捕虜交換合意の第 2 段階を遅らせ、極右のベザレル・スモトリッチ財務相をなだめていると非難した。

ヤアロン氏は声明で、ネタニヤフ首相は「スモトリッチ氏が連立政権を解体するのを防ぐため、ハマスとの合意第 2 段階の実施を遅らせている。これはネタニヤフ首相の権

力維持に不可欠だ」と述べたと報じられている。

また、スモトリッチ氏は「交渉を進めるよりも、ガザでの軍事作戦の再開を、たとえイスラエルの捕虜を見捨てることになったとしても」望んでいると述べたと、同報道は付け加えている。

元大臣は、財務大臣が連立政権の脅しを利用してネタニヤフ首相にハマスとのさらなる交渉を拒否するよう圧力をかけていると警告した。

停戦の第 1 段階である 42 日間は、イスラエルの捕虜と数百人のパレスチナ人被拘禁者の解放と引き換えに 3 月 2 日に期限が切れた。

米当局は「苛立ち」

ガザでの戦闘の永久的終結、残りの捕虜全員の帰還、イスラエル軍のガザからの完全撤退を交渉することを目

的とした第 2 段階はまだ始まっていない。

ヤアロン氏は、米国当局はネタニヤフ氏の時間稼ぎ戦術に「苛立ち」を募らせており、ハマスとの直接交渉を開始したと述べたと同紙は伝えている。

「米国は現在、米国市民権を持つ人質の解放に取り組んでいる」とヤアロン氏は述べ、ワシントンが交渉を進めるためにイスラエルの指導部を迂回していることを示唆した。

ヤアロン氏はネタニヤフ氏の解任を求め、同氏の政権は「腐敗している」と述べ、人質危機を長引かせたとして同政権を非難したと同紙は付け加えた。

(PC、アナドル、QNN)



ハマスは、攻撃は停戦を「覆す」ものだ」と述べ、イスラエル人捕虜の家族はネタニヤフ首相が「人質を放棄した」と非難している。

2025 年 3 月 18 日

イスラエルはガザへの大規模な空爆を開始し、数百人を殺害し、ハマスとの脆弱な 2 か月間の停戦を粉砕した。

ガザ全域で行われた火曜日の攻撃は、停戦が 1 月 19 日に発効して以来最も激しいもので、パレスチナ保健省は少なくとも 326 人が死亡したと報告している。

この致命的な攻撃に対する世界の反応は以下のとおり：

ハマス

ガザを統治するハマスは、イスラエルの攻撃は 1 月 19 日に始まった停戦の一方的な取り消しであると見ていると述べた。

「ネタニヤフ首相とその過激派政府は停戦協定を覆す決断を下しており、ガザの囚人を未知の運命にさらしている」とハマスは声明で述べた。

その後、ハマスの幹部イザト・アル・リシェク氏は声明で、「ネタニヤフ首相の戦争再開の決定」は「占領軍

の捕虜を犠牲にし、彼らに死刑を宣告する決定だ」と述べた。

イスラエル

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相の事務所は、作戦は期限が定められておらず、拡大が見込まれると述べた。

「今後、イスラエルは軍事力を強化してハマスに対抗する」と述べ、作戦は「ハマスが人質の解放を繰り返し拒否し、米国大統領特使スティーブ・ウィットコフ氏や仲介者から受け取った提案をすべて拒否した」ことを受けて命じられたと付け加えた。

イスラエル・カッツ国防相は「人質が帰国せず、戦争の目的がすべて達成されない限り、我々は戦闘をやめない」と述べた。

米国

ホワイトハウスの報道官カロリン・リービット氏は、イスラエルは攻撃について「トランプ政権とホワイトハウス」に相談したと述べた。

「トランプ大統領が明らかにしたように、ハマス、フー

シ派、イラン、イスラエルだけでなく米国をも恐怖に陥れようとするすべての人々は、代償を払うことになるでしょう。地獄が解き放たれるでしょう」と彼女は述べた。イスラエル人捕虜の家族

ガザで捕虜となった人々の家族を代表する人質および行方不明家族フォーラムは、X への投稿で、イスラエル政府の攻撃決定は「人質をあきらめる」ことを選んだことを示していると述べた。

「ハマスのひどい捕虜状態から愛する人々を返還するプロセスが故意に解体されたことに、私たちは衝撃を受け、怒り、恐怖を感じています」と同グループは述べた。同委員会は、なぜ政府がハマスとの停戦合意から撤退したのかを政府に問いただした。

イエメンのフーシ派

イエメンのフーシ派反政府勢力は、米国との敵対関係が激化する中、パレスチナ人への支援を強化すると約束した。

フーシ派の最高政治評議会は声明で、「我々はシオニストの敵がガザ地区への侵略を再開したことを非難する」と述べた。「パレスチナ人はこの戦いで孤立することではなく、イエメンは支援と援助を継続し、対立のステップをエスカレートさせる」。

パレスチナ・イスラム聖戦

パレスチナ・イスラム聖戦 (PIJ) 武装グループは、イスラエルが「停戦に向けたあらゆる努力を故意に妨害している」と非難した。

中国

中国外務省の報道官、毛寧氏は、北京は状況を「非常に懸念している」と述べ、関係者に対し「状況の悪化につながるような行動を避け、より大規模な人道的災害を防ぐ」よう求めた。

アメリカ・イスラム関係評議会 (CAIR)

ワシントン DC に拠点を置くイスラム教徒の公民権擁護団体 CAIR は声明で、ネタニヤフ政権が「ガザの男性、女性、子供に対する恐ろしい大量虐殺攻撃を再開し、数時間で数百人の民間人を殺害した」と非難した。

同団体は「ネタニヤフ首相は、トランプ大統領が仲介に協力し、彼が救わなければならない停戦協定で求められているように、双方の拘束者全員を交換し、大量虐殺戦争を永久に終わらせることで内閣が崩壊するリスクを冒すよりも、難民キャンプでパレスチナの子供たちを虐殺する方が明らかにましだ」と述べた。

出典：アルジャジール



2025 年 3 月 14 日 記事、論評

イクバル・ジャサット著

市民の自由、特にイスラエルの大量虐殺的なアパルトヘイト体制に反対する膨大な数のアメリカ人にとって、市民の自由が直面している危険は現実のものである。米国の信用を失った、違法で不道德な「対テロ戦争」(WOT) は、市民の自由に対するさまざまな攻撃の中で、正当な手続きに頼ることなく恣意的に拘留するという恐ろしい遺産を残した。

マフムード・ハリルは、ドナルド・トランプ米大統領のリーダーシップの下で腐敗した右翼政権が追求する広

範な対テロ戦争の最新の犠牲者だ。

トランプとその側近たちの言葉遣いやアプローチは、ジョージ・W・ブッシュのそれと何ら変わらない。ブッシュは 2001 年 9 月 11 日の事件から数日後に、WOT は「1 つの戦い」に限定されないと国民に約束した。

彼の決断は衝撃的だった。WOT は「これまで見たことのない」長期にわたる作戦となる。テレビで放映される劇的な攻撃や、成功しても秘密裏に行われる秘密作戦が含まれるとブッシュは宣言した。

「我々はテロリストの資金を枯渇させ、テロリスト同士を敵対させ、避難所や休息がなくなるまであちこちに

追い払う。そしてテロリストに援助や安全な避難場所を提供する国を追及する。あらゆる地域のあらゆる国が今、決断を迫られている。我々の側に立つか、テロリストの側に立つかだ。」 「テロリスト」とその「目的」についての彼の描写は、イスラエルの戦略書からそのまま抜き出したものだ。なぜなら、それはブッシュの復讐心に燃えるイスラム恐怖症を明らかにするだけでなく、トランプのホワイトハウス内の現状への洞察も与えてくれるからだ。

彼ら(「テロリスト」)がなぜアメリカを憎んでいるのかという自身の修辭的な質問に答えて、ブッシュは「彼らは、この議場で我々が見ているもの、つまり民主的に選ばれた政府を憎んでいる。彼らの指導者は自称だ。彼らは我々の自由を憎んでいる。我々の宗教の自由、言論の自由、投票や集会の自由、互いに意見を異にする自由だ」と宣言した。

奇妙なことに、ブッシュは瞬きもせず「彼らはエジプト、サウジアラビア、ヨルダンなど多くのイスラム諸国の現政権を転覆させたいのだ」と述べて、自身の「投票の自由」と矛盾した。

確かに、これらの親米諸国で投票権だけでなく言論の自由を含む他の基本的な自由も否定されている何百万もの人々には、この皮肉は理解できなかっただろう。米国が支援する従属政権の地下牢には、正当な手続きに頼ることができない拷問を受けた犠牲者があふれている。それはまさに、マフムード・ハリルの拘留という、今日の不当な米国政治で私たちが直面しているものだ。

市民の自由、特にイスラエルの大量虐殺的なアパルトヘイト体制に反対する膨大な数の米国人にとっての危険は現実のものだ。

調査ジャーナリストのジョシュア・フランクは、自身のソーシャルメディアプラットフォームで次のように説明している。

@joshua.frank - 「マフムード・ハリルの違法拘留は、トランプの拡大し浸透する警察国家の試運転であることは間違いない。この腐敗した政権が、犯罪で告発されていない永住者を国外追放しても罰せられないのであれば、脅威とみなす者を標的にするだろう。つまり、パレスチナ人の存在権を擁護する私たち全員だ。だから、言論の自由に対するこの露骨な攻撃を軽視してはならない。これは警告だ。ハリルは政治犯だ。声を上げろ、さもないと次は我々だ。ハリルを解放しろ！パレスチナを解放しろ！」

入植植民地政権の悪名高い人種差別政策を必死に擁護する親イスラエルのロビー団体がある南アフリカと同様

に、米国にはもっと強力な圧力団体がたくさんある。

マフムード・ハリルの逮捕の功績を主張している団体の一つが、ニューヨークを拠点とするシオニスト組織ベタール USA だ。

エレクトロニック・インティファダの編集者アリ・アブニマの報告によると、同組織は「パレスチナ人に対する憎悪を広めることで悪名高く、パレスチナの赤ん坊の大量殺戮を明白かつ直接的に扇動した」とされている。

ベタール USA は自らを「ロシア人入植者ゼエフ・ジャボチンスキーの国際運動の北米支部」と称しており、これはまったく驚くべきことではない。ジャボチンスキーは、イスラエルの戦争犯罪者ネタニヤフのリクード党の暴力的な反パレスチナ思想に影響を与えた人物である。

この組織の卑劣な人種差別思想をさらに深く知るために、パレスチナ人ジャーナリストのライラ・アル・アリアンが、ガザでのイスラエルの大量虐殺で1歳になる前に殺された数百人のパレスチナ人の赤ちゃんの名前をツイートしたことに對し、ベタール USA は「まだ十分ではない。ガザで血を流せ」という恐ろしい反応を示した。そして、マフムード・ハリルの拘留が、アパルトヘイト体制に批判的な声を抑圧し、沈黙させ、消し去ろうとするシオニスト・ロビーの要求と関連していることを確認するために、トランプ政権はためらうことなくそうしている。

コロンビア大学に対する要求リストは、逸脱した政治家の匂いがするが、氷の国家は、どう見てもイスラエルに触発されたものである。

「昨年、学生が建物を占拠し、ハミルトン ホールと改名した抗議活動に関わった学生を懲戒する。「意味のある懲戒とは、退学または複数年の停学を意味する。

「国際ホロコースト記憶連盟 (IHRA) の定義に従って反ユダヤ主義の定義を公式化する。」

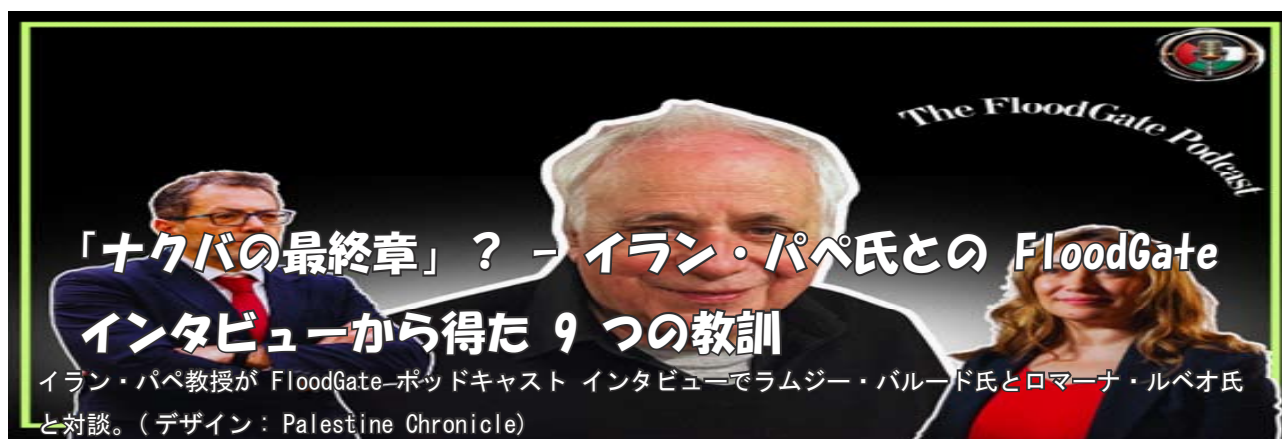
シオニストによる米国情勢への干渉と操作の程度、およびブッシュの WOT の反響を考えると、ホワイトハウスの職員がハリルを「米国の外交政策と国家安全保障上の利益に対する脅威」と見なしたと報じられていることは驚くに当たらない。

しかし、ハリルの苦境を表明する最も重要な声は、妻のヌール アブダラの声である。

ロイターとのインタビューで、妊娠 8 か月の米国市民であるアブダラは、最初の子供が生まれる前にハリルが自由になることを望んでいると述べた。

彼は自由になるだろうか？

世界が待っている。



2025 年 3 月 14 日 記事、特集

Romana Rubeo 著

イラン・パペ教授が FloodGate ポッドキャストに参加し、イスラエルの入植者と植民地の矛盾、進行中のナクバ、ガザの破壊における西側の役割を分析します。

3 月 12 日水曜日の FloodGate ポッドキャストの魅力的なエピソードで、Palestine Chronicle 編集者のラムジー・バルード氏とロマーナ・ルベオ氏は、著名なイスラエルの歴史家、イラン・パペ教授を特集しました。

パペ氏は、イスラエルの入植植民地主義計画の核心にあるイデオロギー的矛盾を解明し、10 月 7 日がシオニストと民主主義者の両立の不可能性を露呈した理由を説明した。

ガザの破壊から西側諸国の共謀まで、パペ氏はナクバ・アル・ムスタミラ（進行中のナクバ）、イスラエルによる大量虐殺、そしてアパルトヘイトに対抗し人権を守るための世界的な連帯の緊急の必要性を解説した。

ナクバ・アル・ムスタミラ - 最終章？

パペ氏は、1948 年から現在までナクバが継続していることを強調し、これはパレスチナ人を抹殺しようとするシオニズムとイスラエル国家の継続的な取り組みであると主張した。

彼はこう説明した。「イスラエルの政策を、特定のイデオロギーに支えられた動機、目的、戦略に基づいて判断するなら、この期間全体は、シオニズムの入植者植民地運動、そして後にイスラエル国家による、パレスチナ人を民族として、国家として、そして思想として排除しようとする試みだったと私は考える」

パペによると、この包括的な計画には、パレスチナ人の追放だけでなく、イスラエルの入植者植民地主義計画の一環として、彼らを独自のアイデンティティと文化として一掃しようとするより広範な取り組みも含まれる。

彼はさらに、この大量虐殺計画が常に大規模に実行されるわけではないが、1948 年や 1967 年などの重要な時

期には、そのプロセスを加速させようとする試みが明らかになったと明らかにした。

彼はこう述べた。「1948 年頃の状況、つまりイギリスのパレスチナ撤退、これがドイツのホロコーストに非常に近かったという事実、アラブ世界が抱えていた問題、植民地世界がまだ国際社会の一部ではなかったという事実、これらすべてが、シオニスト指導者たちの間で、1948 年は大規模な民族浄化、大規模な民族追放を試みるのに非常に良い機会、非常に良い時期であるという考えを生んだのです。」

イスラエルがパレスチナ人を抹殺しようとしているにもかかわらず、パペは長期的には希望を抱いている。

「残念ながら、すぐにではなく、明日や明後日ではなく、長期的には、私たちは現在進行中のナクバの新たな章の始まりではなく、ナクバの終わりにいると思います。」

10 月 7 日以降、イスラエルに対する認識がどのように変化したか

パペ氏は、10 月 7 日以降、世界の市民社会がイスラエル国家を認識する方法が変化したことを指摘しました。

「10 月 7 日の文脈、および 10 月 7 日以降に展開した出来事は、当初よりもはるかによく理解されていると思います。人々はより多くの本を読み、より知識を深めるようになりました」と彼は述べました。

しかし、このように理解が深まったにもかかわらず、パペ氏は、世界の西側諸国の多くが歴史的な文脈を無視し続けていることを強調しました。「文脈を知っている多くの人々、特に世界の西側諸国の主流メディア、学界、政治で重要な地位を占めている無知でも愚かでもない人々が、文脈を無視したり否定したりしているのではないかと心配しています。」

パレスチナ対イスラエルの物語

パペ氏は、パレスチナの物語に対する抑圧が強まっていることを論じました。彼は、パレスチナの物語は理性的な議論ではなく、脅迫と抑圧によって弱められている

と考えています。

「私が今見ているのは、学問的でも道徳的でもない手段で、脅迫によって他の（パレスチナ - 編集部注）物語を破壊しようとする大きな試みだ」と彼は述べ、パレスチナ人の声を黙らせるために反ユダヤ主義やテロリズムなどの非難を武器にしていることを指摘した。

この変化は、パレスチナの物語に妥当性が欠けているからではなく、ますます脅威とみなされるようになったためだと彼は主張した。「それは、（イスラエルの）物語にとって何かが非常に危険であることを示しています」。

彼はさらに、イスラエル国家が同盟国を利用してこの物語を永続させる方法を批判し、「この物語をでっち上げた国家は、歴史的事実の捏造や物語の妥当性に関係なく、依然として支持されるだろう」と指摘した。

西洋における民主主義的価値観の浸食
インタビューで、パペは西洋社会における民主主義的価値観の浸食について語った。

パペ氏によると、2023 年 10 月 7 日の出来事のような危機の瞬間は、特定の政治勢力によって、特に多文化・多民族社会に影響を与える自由を抑圧するために利用されることが多い。

「常に要素がある。「政府の秘密機関、政府内部、あるいは政府の暗部など、人々の自由に満足していない組織は、テロリズムや国家安全保障上の脅威との戦いを口実に、自由を損ない、自由民主主義に対するより偏狭な見方を押し付けることがよくある」とパペ氏は強調した。

また、特に有色人種の女性、特にイスラム教徒、アラブ人、アフリカ系の女性を標的とした、組織的差別の増加を指摘した。

パペ氏は、こうした行動が、自由民主主義が世界にもたらす前向きな貢献を最終的に損なっていると警告した。

こうした政策の結果は、人道的思想の歪曲に表れており、特にパレスチナにおける平等な権利の擁護などの平和的概念が、テロ支援と誤ってレッテルを貼られる場合がそうだ。

「非常に信じられないのは、非常に民主的な思想、西洋とパレスチナの将来について表明された思想さえも、テロリズムとして捉えられていることだ」

ネタニヤフ首相の権力基盤

パペ氏はまた、イスラエル社会の複雑さについても言及し、シオニズムが自由民主主義の価値観とますます相容れなくなっていることを指摘した。入植者植民地主義のイデオロギーと、そのメンバーの一部が唱えるより普遍的な価値観は、決して真に共存することはできないと主張した。

「自由主義的な植民者になることはできない。アルバート・メミは、この点について非常にうまく書いている。進歩的な民族浄化者になることも、社会主義的な大量虐殺者になることもできない。それはできない」。

パペ氏によると、このイデオロギーの衝突は、10 月 7 日以降の出来事が証明しているように、イスラエルが直面している危機の核心である。

彼は、イスラエルのユダヤ人の多くが国を去ることを決意したことを説明した。少数派は、自由主義的な価値観と占領の暴力を調和させることができず、シオニスト計画から距離を置いている。

「入植者植民地社会が、リベラルで普遍的、社会主義的な道徳観を実際に提供できるという考え、そして、入植者植民地の原住民排除のイデオロギーだけでなく、グローバルな考えにも忠実な道徳観を実際に提供できるという考え、（…）これらを融合させてシオニズムの実現可能なイデオロギー的解釈にできるという考えは、決してうまくいかないだろう」と彼は述べ、次のように付け加えた。

「これが 10 月 7 日の出来事だ。シオニストでありながら民主主義者、シオニストでありながらリベラルであることの不可能性を露呈した」。

パペ氏によると、イスラエルのユダヤ人の 3 番目のグループは、人権と国際法を尊重する可能性を「あきらめた」。彼によると、これが現在「ネタニヤフの権力基盤」となっている。

「今日、イスラエルのアパルトヘイト国家を支えているイデオロギーは、勝利を収め、シオニスト計画にもっとリベラルな民主主義の側面を持たせようとする、より真摯で冷笑的な試みの残骸を破壊しているイデオロギーである」。

ガザの再建

パペ氏はガザの再建をめぐる現在の議論を振り返り、イスラエルの継続的な抑圧の根本原因に対処せずに再建に取り組むことは効果的ではないとの懐疑的な見方を示した。

同氏は、イスラエルの医師によるパレスチナ人被害者の扱い、つまり傷を治療しても彼らを苦しめる人々の元に送り返すという扱いに類似点を見出した。

「イスラエルが現在イデオロギー的、道徳的、国際的にどこにいるのかという問題に対処せず、パレスチナ人の将来がどうなるのか自問せずにガザを再建することは、誰かを治療し、しばらくは癒したが、現代のパレスチナという地獄に送り返すようなものだ」。

同氏は、和解に重点を置くオスロ合意は、占領と民族

浄化という根本的な問題に対処せず、抑圧者が国際的な正当性を維持するのに役立つだけだと警告した。

「これは和解の話であり、解決策の話であり、実際には抑圧者と占領者が国際的な正当性という点で楽をするためのものにすぎません。」

パレスチナ統一の神話

パペ氏はパレスチナ統一の重要性を認めたが、国際社会の不作為の言い訳として使われるべきではないと主張した。

彼は、パレスチナ人だけでなく世界が団結して、パレスチナのコミュニティを破壊し続けている大量虐殺、民族浄化、暴力を止める必要があると強調した。

「殺人、大量虐殺、民族浄化を止めるために必要な団結はパレスチナ人の団結ではなく、世界の団結です。」
彼は南アフリカでの ANC の勝利を指摘し、彼らを救ったのは内部の結束だけでなく、アパルトヘイトに対する世界の団結だったと述べた。

「ANC を救ったのは団結ではなく、彼ら自身の闘争とは別に、南アフリカのアパルトヘイト体制の無効性または非合法性に関して、最終的に世界が団結したことだ」
ロシア、中国、そしてグローバルサウス

パレスチナ闘争におけるロシアと中国の役割について議論する際、パペ氏は、これらの国々が国連や経済取引を通じて影響力を行使し、イスラエルに責任を負わせることができると提案した。

彼は、これらの国々は人権に関しては完璧ではないが、ロシアと中国は、パレスチナとの国際連帯にとってより好ましい条件を作り出す力を持っている。

「ロシアと中国にはそうする力がある。トランプ大統領が世界の地政学的同盟を再編している今、特に西側諸国と交渉できる。」

パペ氏はまた、パレスチナ人は、信用を失った米国や欧州ではなく、南半球諸国が仲介する未来の対話を望んでいると示唆した。

「パレスチナ人が国民運動として、自分たちの未来についての対話に参加できる立場にあると感じたとき、米国や欧州ではなく、中国とロシアが仲介し、促進する対話を望むだろう。」

パレスチナ人の「見えざる存在」

最後に、パペ氏は、パレスチナ人が自分たちの未来についての国際的議論において長年見えざる存在であったことについて論じた。

彼は、パレスチナ人が自らの運命についての対話を主導し、世界が彼らを自分たちの未来を形作る主役として認識する必要性を強調した。

「パレスチナ人がそのことについて語る必要がある…国際社会がパレスチナ人が自らの未来についての対話を主導していることを認めた瞬間、パレスチナ社会内で団結、より明確な代表、より明確なビジョンなど、より前向きなプロセスが活性化するだろう。」

彼は、パレスチナのリーダーシップなしで問題を解決しようとする過去の試みは失敗しており、パレスチナ人が抑圧者の目だけでなく世界全体から見えるようになることが重要であると指摘した。

「このような対話と言語が支配的になり、誰が未来への道を先導しているのかという異なる考えを生み出すことを期待すべきだ。」

(パレスチナ・クロニクル)

UAWC 寄付するには

IBAN (国際口座番号) ES41 1550 0001 2800 0113 1721

BIC/SWIFT: ETICES21XXX

受益者: Bizilur、Asociación Para la Cooperación y el Desarrollo de los Pueblos (Bizilur、人民協力開発協会)

住所: C/ Cardenal Gardoki 9 - 5o Dcha

都市: ビルバオ

重要: 寄付には税制上の優遇措置があります。

Bizilur Asociacion Para La Cooperacion Y Desarrollo De Los Pueblos への寄付は、個人所得税 (IRPF) の税控除の対象となります。ご質問がございましたら、(+34) 94 433 88 17 または Palestina@bizilur.org までご連絡ください。

アハリー病院に支援を

アハリー・アラフ病院を支援する会

東京都新宿区西早稲田 2-3-18

キリスト教事業所連帯合同労働組合気付

問合せ Fax: 03-3207-1273 (担当: 星山・新名)

メール ayyam_ahli@yahoo.co.jp

(振込先)

口座名義: アハリー・アラフ病院を支援する会

郵便振替口座: 00150-7-601525

パレスチナ日誌

2025 年 2 月

2 月 1 日

- ・ガザと UNRWA に関するカイロでのアラブ会議
- ・イスラエルの予備役 2 名がイランのスパイとして告発される
- ・トランプ大統領、イスラエルへの小銃 24,000 丁の出荷承認を検討
- ・アル・カッサムがイスラエル人捕虜 3 人を引き渡す
- ・占領軍ファタハ運動のスポークスマン、マヘル・アル＝ナムーラを逮捕
- ・イスラエルの国際法違反を阻止する国際連合
- ・健康状態が悪化すると、多くの囚人が病院に移送された。
- ・ガザの保健省：24 時間で 27 人の殉教者
- ・占領軍はジェニンとトゥルカラムへの侵攻を続け、破壊と避難が
- ・赤十字、パレスチナ人囚人の処遇をめぐりイスラエルに怒り

2 月 2 日停戦 15 日目：

- ・ハマス 人道議定書を履行するよう占領軍に圧力をかけることを求める
- ・エヤル・ザミールがイスラエル軍の新参謀総長に就任
- ・レバノン軍、南部でのイスラエル攻撃の中、アイタルーンに展開
- ・ガザで拘束されたイスラエル人の家族たち： ネタニヤフ首相と政府は交換を妨害しようとしている
- ・占領軍は 7 日目もトゥルカラムとそのキャンプへの侵略を続ける
- ・ラファ交差点が開通し、さらに多くの殉教者が収容される
- ・西岸地区への侵略を拡大する占領軍： タムーン村での軍事作戦
- ・スモトリッチ、ネタニヤフ首相にヨルダン川西岸にイスラエルの主権を押し付けるよう要求
- ・国連報告者 ガザ情勢は現代史において前例のない次元に達している
- ・扇動図書の販売を口実に、占領軍がエルサレムの図書館を閉鎖

2 月 3 日停戦 16 日目：

- ・英国、ガザ停戦中に偵察機 2 機を発進させる
- ・占領軍はトゥルカラムへの侵略を続けている。1500 世帯が避難、病院は包囲される
- ・15 棟の建物の避難占領軍はタムーンの町での攻撃をエスカレートさせる
- ・占領軍と入植者による先月 2161 件の攻撃
- ・ガザ地区北部のシェイク・ザイド市で殉教者 20 人の遺体を収容
- ・年初来、ヨルダン川西岸で 70 人の殉教者
- ・国連報告者 ガザの学校の 90%以上が破壊された

2 月 4 日停戦 17 日目：

- ・スモトリッチ サウジアラビアとの和平合意は支持するが、パレスチナ国家樹立の展望は示さない
- ・占領軍、アル＝ファルアキャンプの赤新月社医療拠点を襲撃
- ・入植者がシェイク・ジャラーの UNRWA ビルを襲撃
- ・イスラエル空軍、ヨルダン川西岸に爆撃準備のため「ターゲット・バンク」を設置
- ・犯人は殉教者 トゥバス近郊での銃撃作戦で死傷者
- ・9 日目－占領軍はトゥルカラムとそのキャンプへの侵略を続ける
- ・占領軍はイドナの町で商業施設を取り壊し、電気網を破壊した。
- ・ラシッド通りでの新たな襲撃と占領軍によるラファ交差点での患者や負傷者の移動の妨害
- ・UNRWA ジェニンキャンプの状況は破滅的な方向に向かっている
- ・イスラエル、ヨルダン川西岸地区で 1 か月間に 55 人のパレスチナ人を殺害、380 人を逮捕したことを認める
- ・トランプ大統領、UNRWA と人権理事会からワシントンから脱退させる大統領令に署名

2 月 5 日停戦 18 日目：

- ・エルサレムポスト ネタニヤフ首相、サウジアラビアとの国交正常化を優先しヨルダン川西岸編入を断念か
- ・ハマス、トランプ大統領のガザ住民避難発言への断固拒否を確認
- ・サウジアラビア パレスチナ国家の樹立なくしてイスラエルとの合意なし
- ・トランプ大統領、ガザを「管理」する計画を提示： アメリカはガザを占領する
- ・エジプト・ジャーナリスト組合、トランプ大統領のガザ制圧発言を否定
- ・継続的な違反とハマス、イスラエルが停戦条項の一部を妨害していると非難

2 月 6 日停戦 19 日目：

- ・UNRWA： UNRWA の活動を弱体化させれば、数百万人の命が危険にさらされる

- ・グテーレス：ガザはパレスチナ領土の不可欠な一部である
- ・イスラエルが人権理事会から脱退
- ・ネタニヤフ首相、トランプ大統領のパレスチナ人ガザ移転計画を支持
- ・相次ぐ違反行為で 3 人の命が奪われ、風で避難民のテントが根こそぎ倒れる
- ・中国 ガザ地区はパレスチナ人のものであり、彼らの土地の一部である。
- ・アイマン・オデ氏のクネゼト除名に 66 人の議員が署名
- ・シン・ベトの主張 エルサレムでバス襲撃を計画していたラマツラ出身の組織を逮捕した。
- ・トランプ大統領 イスラエルは戦闘終結後、ガザ地区を米国に引き渡す
- ・西岸」を「ユダヤ・サマリヤ」に置き換える米法案
- ・エジプト、トランプ案を拒否： 我々はパレスチナ人を移住させる提案には加わらない
- ・ホワイトハウス トランプ大統領、ハーグの国際刑事裁判所に制裁を課す

2 月 7 日停戦 20 日目：

- ・ヨルダン国境沿いに壁と入植地を建設するというイスラエルの決定
- ・UNRWA、ガザの数十万市民が寒さの危険にさらされていると警告
- ・占領軍がヤトマとカブランの町を襲撃
- ・占領軍はベカーと南部のいくつかの地域で襲撃を開始した。
- ・占領違反が続くなか、人道的危機は悪化する
- ・占領軍は 6 日連続でトゥバスの南にあるタムーンとアル・ファルアキャンプへの攻撃を続けている。
- ・イスラエル国防相、情報長官を非難 トランプ大統領のガザ住民移転計画批判を封じる
- ・欧州委員会 ICC への制裁は世界的なアカウンタビリティの取り組みを弱体化させる

2 月 8 日停戦 21 日目：

- ・トランプ ガザを “不動産取引” として扱う
- ・公式 トランプ政権、イスラエルとの 80 億ドルの武器取引を議会に通知
- ・新たな捕虜交換とサラ・アルディン街道の双方向開通
- ・オブザーバトリー 停戦後、少なくとも 110 人の市民が死亡
- ・釈放された 3 人の囚人、イスラエル人に挨拶
- ・ヨルダン川西岸 釈放される囚人の家族の家への襲撃と攻撃
- ・殉教者 26 名と負傷者 5 名が 48 時間以内にガザの病院に到着
- ・イスラエル軍、シリア南部のハマス武器庫を標的にすると発表

2 月 9 日停戦 22 日目：

- ・国連報告者 パレスチナ人を土地から追い出すことなくガザを再建できる
- ・UAE は、サウジアラビアにおけるパレスチナ国家樹立に関するネタニヤフ首相の発言を非難する。/
- ・イスラエルは移動メカニズムを変更することなくネツァリムからの撤退を発表。
- ・トゥルカラムへの攻撃で女性と胎児が殺害された... 占領軍はヌール・シャムスへの侵攻を拡大
- ・ガザ民間防衛 占領軍は人道議定書を守らなかった。
- ・占領軍はジェニン・キャンプを完全に破壊し、2 万人以上の市民を強制移住させた。
- ・ベン＝グヴィールは、ガザからのパレスチナ人のための「自発的移住」計画の実施を加速させることを求めている。
- ・ガザで 24 時間以内に 7 人の殉教者を収容

2 月 10 日停戦 23 日目：

- ・ネタニヤフ首相、トランプ大統領の構想について： これは革命的なビジョンであり、我々はそれについて議論している。
- ・ドイツ首相： トランプ大統領のガザ計画は恥だ
- ・国境付近でサラ・アルディン通りとシュハダ通りが開通。
- ・ジェニンのレジスタンスはシラット・アル・ハリチャでイスラエル軍を標的にした。
- ・「ラマダン・パルス 戦争の一時凍結と囚人交換取引の促進を求めるイスラエルの新提案。
- ・占領軍がイッサウィヤで解体命令を配布
- ・ネタニヤフ首相のせいで、カタールは捕虜交換の第一段階を中止すると警告している。
- ・ヨルダン川西岸地区で 1 月に約 580 人逮捕
- ・ガザ：24 時間で殉教者 19 人、負傷者 15 人、死者数は 48,208 人に。
- ・国連調査官 トランプ大統領のガザ計画は違法であり、“民族浄化” に相当する
- ・占領軍は、ヨルダン川西岸で数十人の過激派を殺害し、数百人の指名手配犯を逮捕したと主張している。
- ・UNRWA 占領により、ヨルダン川西岸地区北部から約 4 万人のパレスチナ人が避難している。

オリーブの会通信 第 52 号（通巻 58 号）

- ・占領軍は、サルフィット西部の入植地放牧用に 2,622 ダムを接收したと発表した。
- 2 月 11 日停戦 24 日目...**
- ・エジプト 国際社会は、パレスチナの人々に対する歴史的な不正を終わらせなければならぬ。
- ・トランプ大統領、ガザを「地獄」で脅し、全拘禁者の解放期限を設定
- ・エジプト、アラブ諸国によるトランプ大統領のガザ案拒否を米国に通告
- ・イスラエルの違反行為で合意崩壊の恐れ
- ・占領軍はヨルダン川西岸北部の入植地に装甲兵員輸送車を配備している。
- ・占領軍はベツレヘムの土地に入植地を建設し始めた。
- ・ファルアキャンプに 3,000 人以上の避難民
- ・イスラエル軍ラジオ イスラエルはシリア国内に安全地帯を設定した。
- ・トゥルカルム ヌール・シャムスキャンプの人口の 80%が大規模な破壊と移住を余儀なくされた。
- ・ガザの保健省： 24 時間で殉教者 3 人、負傷者 10 人
- ・占領軍がタルクミヤ自治体本部を襲撃し、市民 3 人を逮捕。
- ・ガザの保健省： 合意発効以来、ガザで 92 人の殉教者。
- ・トランプに対抗して、アル＝クドワとオルメルトは会議を開き、2 国家解決を堅持する必要性をアピールする。
- ・ヨルダン川西岸北部のキャンプでは、1948 年以来最大の集団避難
- 2 月 12 日停戦 24 日目：**
- ・サルフィット西部のワディ・カーナで入植者が農民を襲撃。
- ・イスラエル軍は警戒レベルを引き上げ、追加部隊を招集する。
- ・サウジアラビアは、パレスチナ人の強制移住に関するイスラエルの声明を強く拒否している。
- ・エジプトとヨルダン： 私たちには、移住者を出さずにガザを再建するアラブ諸国の計画がある。
- ・占領軍はトゥルカルムとその 2 つのキャンプへの攻撃を続けている。
- ・イスラエルによる脅迫と侵害の継続
- ・アルアルブ・キャンプでの大規模な攻撃と家屋の取り壊し
- ・フランス大統領、ガザに関するトランプ米大統領の提案を拒否
- ・占領軍は 1967 年以来、ヨルダン川西岸で 130 万ダムを没収している。
- ・トゥルカルム 占領軍はヌール・シャムスキャンプの住民に即時避難要求
- ・中国は断言する： ガザはパレスチナ人のものであり、強制移住を拒否する。
- ・エジプト政府高官 トランプ大統領の計画が “ 議題 ” にある限り、シシはホワイトハウスを訪問しない
- ・レジスタンス委員会 トランプ大統領の発言は、ガザにおける同胞の大量虐殺と民族浄化という新たな犯罪を助長するものだ。
- 2 月 13 日停戦 25 日目：**
- ・トランプ政権は、アッバス大統領が殉教者や囚人の家族への支払いメカニズムを中止する決定を下したことを歓迎する。
- ・ヨルダンは、パレスチナ地域の併合とその住民の強制移住を拒否することを確認する。
- ・トゥルカルムへ侵攻は 18 日目も続くレジスタンスの待ち伏せで負傷者
- ・ネタニヤフ首相報道官 ガザへのキャラバンや重機の進入は許さない。
- ・フーシ派 トランプ大統領がガザの人々を強制移住させるなら、我々は攻撃を再開する
- 2 月 14 日ガザ停戦 26 日目：**
- ・イスラエルはトランプの支援で何年もシリアにとどまるだろう。
- ・バチカン パレスチナ人は自分たちの土地に留まらなければならない
- ・イスラエル軍はヒズボラの軍事拠点を攻撃。
- ・占領軍は、トゥルカルムとその 2 つのキャンプに対する攻撃を 19 日目も続けている。インフラと財産の広範囲に及ぶ破壊、そして現在進行中の移住。
- ・占領軍はジェニン市とそのキャンプへの攻撃を 25 日目も続けている。
- ・国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）： イスラエルは、アルアルブ・キャンプにある私たちの保健センターを収容所として利用しました。
- ・占領軍はヒズマを襲撃し、20 台の車両を押収した。
- ・土曜日の囚人交換パッチ： 369 人のパレスチナ人囚人が釈放される
- ・ガザ政府 「エジプト側からガザ地区に入るキャラバンや車両はない」。
- ・イスラエル軍は拘束したフッサム・アブ・サフィエ博士を不法戦闘員に仕立て上げた。
- ・140 名の議員がトランプのガザ計画を批判
- ・占領軍はトゥルカルムとその 2 つのキャンプに軍の増援を送る。
- ・エルサレム教会が、ガザ住民の強制移住計画に反対する緊急アピール
- 2 月 15 日停戦 27 日目：**
- ・イランはイスラエルの脅迫を受け、2 機の飛行機がレバノン国民を帰国させるのを阻止。

- ・新たな捕虜交換、イスラエルの侵害は続く
- ・カッサム旅団がイスラエル人囚人 3 人を引き渡す
- ・ヨルダン： これ以上の難民には耐えられないし、パレスチナ人の強制移住も許さない。
- ・エルサレム 釈放された囚人ナエル・オベイドがイッサウィヤ村に到着したのと時を同じくして、オベイドの自宅が避難された。
- ・占領軍は、「ガン・ネル」入植地で攻撃を行ったという理由で、ジェニンの若者を逮捕したと発表した。
- ・ガザ保健衛生： 48 時間で 25 人の殉教者を収容
- ・レバノン軍が空港道路でヒズボラの座り込みを鎮圧。
- ・エジプト ラファ交差点、強制送還されたパレスチナ人囚人 24 人を収容
- ・UNRWA： ヨルダン川西岸地区で 4 万人のパレスチナ人が家を追われる
- ・デヘイシェ難民キャンプとアル・カダーの町で占領軍との衝突が勃発。
- ・イスラエル人囚人の家族 我々は、ネタニヤフ首相がハマスのとの合意を妨害することを許さない。
- ・ヨーロッパの首都や各都市で、ガザ地区に住む私たちの同胞を移住させようという呼びかけを拒否するデモが行われた。
- ・占領軍はアルビレ市を襲撃した。
- 2 月 16 日停戦 28 日目：**
- ・占領軍はトゥルカルム市とその 2 キャンプに軍事的増援を送っている。
- ・イスラエルはガザ地区への移動式住居の搬入を拒否している。
- ・殉教者と 15 人の患者の移動が妨げられる... 停戦 28 日目もイスラエル軍の侵犯は続く
- ・イスラエル政府は、戦争犯罪の記録化を妨げる 2 つの法律を推進し・イスラエル政府はザミールの新陸軍参謀総長就任を承認。
- ・アメリカの重爆弾がイスラエルに到着。
- ・オフェル刑務所で警戒態勢、弾圧部隊が囚人区画を襲撃
- ・占領軍機がレバノンの数カ所を爆撃。
- ・カット： イスラエルはパレスチナ国家の樹立には決して同意しない。
- ・マサファー・ヤッタの市民に対する入植者の攻撃はエスカレートしている。
- 2 月 17 日停戦 29 日目：**
- ・イスラエル政府高官 フェーズ B はなく、フェーズ A を延長する可能性・ガザ地区へ入るトラックの数は大幅に減少し、違反行為は続いている。
- ・イスラエル軍 停戦後、レバノンから発射されたロケット弾を 5 発探知・占領軍はジェニンとトゥルカルム両州への侵略を続けている。
- ・UNRWA： 毎日 700 台以上の援助トラックがガザ地区に入る。
- ・子どもを含む 25 人のヨルダン川西岸住民を占領軍が逮捕
- ・イスラエル人囚人の家族が 500 分間のハンガーストライキを宣言
- ・イスラエルはアルジャジールのエルサレム事務所の閉鎖と業務禁止をさらに 60 日間延長。
- ・イスラエルがレバノンでハマス幹部の暗殺を発表。
- ・占領によってジェニンキャンプの住民の 90%以上が強制移住・イスラエルはヨルダン川西岸に 1000 戸の住宅建設を計画している。
- ・アウン： レバノンの地にイスラエル人が一人も残っていることは認めない。
- ・“ 調停者の約束とイスラエルの実践のギャップ ” ガザの政府メディアオフィスは、合意の履行を呼びかけている。
- 2 月 18 日**
- ・シン・ベトの責任者は、もはやガザに関するイスラエルの交渉チームの一員ではない。
- ・イスラエル国防相は、ガザ住民を移住させるための特別行政区の設置を決定。
- ・停戦から 1 ヶ月： イスラエル軍の違反行為の継続とトラック進入の遅れ
- ・イスラエル軍はレバノン南部から撤退。しかし 5 か所の国境には残る
- ・侵略の停止を訴える - 占領軍はトゥルカルムキャンプで 14 軒の家屋の取り壊しを開始。
- ・占領軍はナブルスの北西に入植地用道路を建設するために土地を接收した。
- ・ガザの健康： 24 時間で殉教者 7 人（うち収容者 6 人）、負傷者 13 人。
- ・人権団体はイスラエルへの F-35 戦闘機供給の即時停止を要求。
- ・国連パレスチナ難民救済事業（UNRWA） 禁止令に基づき、UNRWA 学校とカランディア訓練センターを襲撃。
- ・ラツツアリーニ 占領軍による UNRWA の学校襲撃は、教育を受ける権利と国連の免責に対する違反である。
- ・UNRWA： 私たちはエルサレムを含むヨルダン川西岸地区でサービスを提供し続けます。
- ・国際指名手配： イスラエル兵 2 名、所在が判明しオランダから逃亡

2 月 19 日休戦 31 日目：

- ・トランプ提案に対するアラブの代替案： 移住を伴わないガザ再建
- ・占領軍はトゥルカラムとその 2 つのキャンプに軍の増援を送り、家屋の取り壊しと焼き討ちを続けている。
- ・武装解除もガザからの撤退も拒否するハマス
- ・囚人ファイルに進展、しかしイスラエルの違反は続く
- ・占領軍は本日夜明けにペイト・ウンマルを急襲し、2 人の兄弟と子どもを逮捕した。
- ・撤退後初めて 占領軍がレバノン南部で自動車を爆破。
- ・米国はパレスチナ自治政府に割り当てられた資金を凍結した。

2 月 20 日停戦 32 日目：

- ・トゥバスの南で民家が包囲され、3 人の殉教者
- ・新聞 17 万人のイスラエル兵が精神治療のために登録した。
- ・レジスタンスがイスラエル人 4 人の遺体を引き渡し、占領軍は違反行為を続けている。
- ・ハマス 占領軍は収容所を爆撃して囚人を殺した。
- ・カッサム旅団、イスラエル人拘束者 4 人の遺体を引き渡す
- ・占領軍はジェニンとトゥルカラムの都市への侵略を続けている。

2 月 21 日停戦 33 日目：

- ・ハワラ住民が占領軍と警察を提訴
- ・ガザ保健省 攻撃による死者は、10 月 7 日以来 48,319 人に上る。
- ・トランプ特使：ガザ計画は「誤解されている。住民の排除ではない第二段階を 8 句雑にする
- ・大統領が発表： 国際平和会議は来年 6 月にニューヨークで開催される。
- ・バットバムで複数のバスが爆発。シン・ベトは調査中で、作戦によるものと推定している。
- ・占領軍機がシリアとレバノンの間を攻撃
- ・イスラエル国防相、ヨルダン川西岸キャンプでの軍事作戦強化を指示
- ・占領軍は、ヨルダン川西岸地区の部隊を強化するため、新たに 3 個大隊を配備することを決定。
- ・ガザ地区南部とガザでの攻撃継続
- ・占領軍は 26 日連続でトゥルカラム市とその 2 つの収容所への攻撃を続けている。
- ・グテーレス大統領、2 国家解決に向けた不可逆的な進展を求める
- ・占領軍によるジェニン市とキャンプへの攻撃 32 日目
- ・入植者たちはヤツタの東で車を燃やし、人種差別的な落書きをスプレーで描いた。
- ・占領軍はトゥルカラムとその 2 つのキャンプに大規模な軍事増援

2 月 22 日停戦 34 日

- ・スウェーデン警察、イスラエル大使館付近で男 3 人を逮捕
- ・イスラエルは、パレスチナ人囚人の家族がエジプトまで囚人を迎えに行くのを妨害している。
- ・イスラエルによる違反行為が続くなか、第 7 陣の捕虜が交換される
- ・アル＝カッサム、ラファでイスラエル人捕虜 2 人を赤十字に引き渡す
- ・カッサム旅団、イスラエル人捕虜 6 人を引き渡す
- ・ハマスが囚人ヒシャム・アルサイードを赤十字に引き渡す（写真）。
- ・エルサレム北東のペドウィン・コミュニティで、入植者たちが家と車両を燃やす。
- ・ハマス 囚人の釈放を遅らせることは重大な違反であり、調停者に介入するよう求める。
- ・入植者がデイル・ディブワンの町から 800 頭の羊を盗む。
- ・ハマスの申し出受け入れ要求、イスラエル人囚人の家族がネタニヤフ首相の合意妨害行為を非難

2 月 23 日 35 日間の停戦

- ・占領軍は停戦合意の一環として第 7 陣の釈放を延期。
- ・： イスラエルは囚人の釈放を延期、現地では違反行為も
- ・ナスララの葬儀前にイスラエルがレバノン南部を 2 度空襲
- ・今日... ガザでは 2024-2025 年の新学期が始まる。
- ・ジェニン地区へ移動するイスラエル軍戦車が目撃される
- ・ヨルダン川西岸北部への侵略を拡大...
- ・ペイルートで数万人がナスラッターとサフィ・アルディンを追悼
- ・占領軍はイブラヒミ・モスクの管理者がモスクに入るのを妨げている。
- ・ウイトコフ 私はガザ合意の第一段階を延長するための交渉を行う。

2 月 24 日 36 日間の停戦：

- ・イスラエル軍はガザ地区の軍事態勢を強化。
- ・「ラマダン・パルス 休戦延長と囚人釈放のための米・イスラエル計画
- ・彼は年末までそこに留まるつもりだ」。占領軍は、ヨルダン川西岸北部のキャンプでネツァリム回廊を再現しようとしている。

- ・囚人 7 人目の釈放を前に、ラファとガザで違反行為
- ・ジェニンの Saraya al-Quds が、Silat al-Harithiya のイスラエル軍に対する爆発物の爆発を発表。
- ・厳しい寒さにもかかわらず、イスラエル当局はアル・アラキブを 236 回目に取り壊した。
- ・占領軍はジェニン・キャンプ内の 120 軒の家屋を完全に取り壊し、数十軒の家屋や施設を部分的に取り壊した。
- ・占領軍はジェニン県とトゥルカラム県から 365 人の市民を逮捕した。
- ・ガザ... 17 万トンの廃棄物の蓄積による環境破壊
- ・ガザの保健省： 24 時間で殉教者 7 人、負傷者 6 人、死者数は 48,346 人に。

2 月 25 日停戦 37 日目：

- ・イスラエル軍 ガザから発射されたロケットを探知 /
- ・イスラエル軍機がガザ地区の標的を爆撃。
- ・アブ・マルズーク もし私が『アル・アクサの洪水』がこのような破壊と損失をもたらすことを知っていたら、それを支持しなかっただろう。
- ・ハマス 「抵抗は正当な権利であり、我々は武器に固執する。アブ・マルズークの発言は我々を代表するものではない」。
- ・ガザで 3 人の子どもが重度の寒さで死亡
- ・トランプ氏、バイデン氏の武器輸出規制を解除
- ・数千人が避難し、広範囲に破壊... ヨルダン川西岸地区北部への攻撃が始まって以来、61 人が殉教した。
- ・占領軍はトゥルカラムキャンプで 40 棟の建物を取り壊し、300 の商店を破壊した。
- ・ラマダン前夜、食欲な商人や監視の目が行き届かない中、物価は高騰する。
- ・イスラエル軍とシン・ベトは、カパティヤで 100 キログラムの爆発物を押収したと主張している。

2 月 26 日 38 日間停戦

- ・レバノン東部バールベックへのイスラエル軍の空襲で殉教者 2 名、負傷者 2 名。
- ・： 囚人釈放の危機に終結の兆し、イスラエルの暴力は続く
- ・交換危機は終結した。ハマスは木曜日にパレスチナ人囚人と交換に遺体 4 体を引き渡す予定だ。
- ・トゥルカラム： 占領軍はヌール・シャムス難民キャンプの住宅 11 軒を破壊するつもりだ。
- ・19 人の市民が逮捕される... 占領軍は 37 日連続でヨルダン川西岸地区への侵略を続けている。
- ・ヨルダン川西岸地区での侵攻が始まって以来、占領軍は 70 人のパレスチナ人を殺害し、250 人を逮捕したと言っている。
- ・囚人第 7 陣の配給： ヨルダン川西岸とエルサレムへの釈放と祖国外への追放

2 月 27 日停戦 39 日目：

- ・エジプト外務省 エジプトがガザ地区を支配することに関するいかなる提案も拒否する。
- ・アル＝カッサム旅団、イスラエル人 4 人の遺体を引き渡す
- ・占領軍は 7 段階の囚人を釈放。
- ・占領軍の暴挙が続く中、ガザ囚人が欧州病院に到着
- ・ハマス われわれの条件で第一段階を延長する用意がある。
- ・ガザ欧州病院： 囚人たちはひどくやせ細っており、歩けない者もいる。
- ・イスラエル、欧州議員 2 人の入国を禁止
- ・囚人交換取引で子供 46 人と女性 2 人が到着。イスラエルの刑務所には女性も子供もいない。
- ・犯人は殉教した...。ハイファ近郊のパルデス・ハンナで轢き逃げ事件が発生し、10 人が負傷した。
- ・カイロ交渉： イスラエルは、第一段階を延長し、第二段階を無視することで、捕虜を引き揚げようとしている。
- ・ヒューマン・ライツ・ウォッチ イスラエルが保健ワーカーのガザ入りを阻止

2 月 28 日ガザ停戦から 40 日

- ・イスラエル “ナシャラ” 運動代表： 我々はガザ、シリア、レバノンに定住しなければならない
- ・、第 2 段階の交渉の中でイスラエルによる違反行為は続いている。
- ・33 日目 占領軍はトゥルカラム市とその 2 つの収容所への侵略を続けている。
- ・アメリカ コロンビア大学キャンパス外で、パレスチナ支持派のデモ隊が警官隊と衝突
- ・ヒズボラ前事務総長の廟近くでのイスラエル空爆
- ・占領軍はジェニン市とそのキャンプへの攻撃を 39 日目も続けている。
- ・イスラエルは、ガザへの援助入国を継続するために、生活拘束者の釈放を条件としている。
- ・イスラエルはガザ合意の第一段階を 6 週間延長することを望んでいる。



私たちはパレスチナ人です	明日は私たちを一つにします
私たちはパレスチナ人、私た	私たちは自由を求めるパレス
ちはパレスチナ人です	チナ人です
私たちの士気は高い… 私たち	私たちのモラルは決意で練り
の精神は強靱です	上げられています
私たちはパレスチナ人です	エルサレムへの愛は私たちと
私たちはパレスチナ人であり、	共にあります
世界は私たちの声を聞いてい	祖父母から孫へ
ます	どれだけ長く離散しても
ガザとラマラの間には意味が	私たちはあなたの元に故郷を
ありません（バリアー）	返してあげます
ナザレとナブルスで私たちの	youtube で「We are Palestinian」で検索
痛みは一つになりました	
前日に何が起きたとしても	

おいしいパレスチナ

シェイク エル マフシ

シェイク エル マフシのレシピは、ローストまたはフライにした小さなナスに、スパイスの効いた調理済みの肉と玉ねぎのミックスを詰め、おいしいトマトソースで焼いたものです。この料理は白米の上に盛り付けられます。

シェイク・エル・マフシとは？

シェイク・エル・マフシは「シェイク・アル・マフシ」とも呼ばれ、中東料理で人気があり、ナスの詰め物で、ナスのポートのように見えます。アラビア語の「シェイク」は「シェイク」または「リーダー」と大まかに訳すことができ、「マフシ」は「詰め物」を意味します。したがって、「シェイク・エル・マフシ」は基本的に「詰め物入りシェイク」または「詰め物入りリーダー」を意味します。

シェイク エル マシは、レバノン、シリアなど中東のさまざまな国でメインコースとして提供されることが多く、この地域の料理の豊かな風味を披露する美味しくて健康的な料理です。肉を省いたり、キノコや他の野菜などの他の材料で代用したりするベジタリアン版も人気があり、広く愛されています。

シェイク・エル・マシ

器具

ベーキングシート - ナスをローストするため

鍋 - 肉と玉ねぎを別々に調理するため

キャセロール皿 - シェイク・エル・マシを焼くため

材料

シェイク・エル・マシの材料

ナス - イタリアナスと呼ばれる中型のナス。

中サイズの玉ねぎ - この料理には白玉ねぎまたはスイートオニオンが最適です。

肉 - このレシピにはミンチ肉、牛ひき肉、またはラム肉がよく合います。牛肉とラム肉を半分ずつ混ぜて使うこともできます。

スパイス (オールスパイス、シナモン、ナツメグ、塩、コショウ) - スパイスは肉においしい風味を与えます。

肉または野菜のスープ - トマトソースと混ぜる

トマトペーストまたはフレッシュトマトソース



海塩

トーストした松の実 - オプション

手順

ナスのロースト

グリルする前にナスを天板にのせる

ステップ 1 | オーブンを華氏 400 度に予熱し、天板に軽く油を塗ります。鋭いナイフで、茎をつけたままナスを上から縦に切ります。

グリルした後の天板にのせるナス

ステップ 2 | 天板にナスを並べ、オリーブオイルを塗り、海塩をふりかけます。ナスが柔らかくなるまで 20 ~ 30 分間焼きます。置いておきます。

肉詰め物の準備

鍋で玉ねぎを炒める

ステップ 1 | 小さな鍋に中火から強火にかけて、中性油またはオリーブオイルを熱し、みじん切りにした玉ねぎを加え、カラメル状になるまで炒めます。

鍋に肉とトーストした松の実を入れた玉ねぎのソテー

ステップ 2 | ラムまたは牛肉のひき肉を加え、ヘラの背で肉をほぐしてから、挽いたシナモン、オールスパイス、ナツメグ、塩、コショウを加えます。肉が茶色くなり、完全に火が通るまで炒めます。

ナスの詰め物

調理した肉の混合物を詰めたナス。

ステップ 1 | ナス 1 個につき肉の混合物を大さじ 2 ~ 3 杯ずつ詰め、すべてのナスが詰められるまで続けます。トマトソースの入ったキャセロールに肉の混合物を詰めたナス

ステップ 2 | 長方形のパイレックスまたはキャセロールにナスを並べます。底と詰めたナスの上にトマトソースを注ぎ、ホイルで覆い、30 分間焼きます。

上にピーマンのスライスを添えると、この料理とよく合います。

をのせます。



3 月 16 日レイチェル。コリーさんが虐殺されて 22 周年、ガザで占領軍のブルドーザーでひき殺された



3 月 19 日西エルサレムで戦争の再開としべと長官の解任に抗議してイスラエル人が行進



3 月 19 日大阪で米国領事館への抗議行動



3 月 14 日岐阜で 岐阜市長への抗議行動

東エルサレムのパレスチナ人の書店が 3 月 19 日に
f 他旅占領軍に襲撃される。→

今号の内容

イスラエルが停戦を破壊・・・・	1
ピア・カバニナ声明・・・・	3
ヤロン氏イスラエルのガザ計画を非難・・・・	4
世界の反応・・・・	5
米国の対テロ戦争の反響・・・・	6
ナクバの最終章?・・・・	8
パレスチナ日誌・・・・	11
パレスチナの歌・・・・	14
おいしいパレスチナ・・・・	15
トピック・・・・	16



3 月 19 日米国国家議員イスラエルへの武器禁輸と支援の停止を要求



3 月 14 日モハムド・ハリルの逮捕に抗議し、ユダヤ人活動家がトランプタワーを占拠

